

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101496		
法人名	医療法人 善昭会		
事業所名	グループホーム菜の花(1F)		
所在地	大分市東鶴崎3-1-6		
自己評価作成日	令和1年9月28日	評価結果市町村受理日	令和2年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和元年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かで落ち着いた住宅街に立地し、周囲の環境に恵まれている。母体の医療機関や介護施設と併設しており緊急時の対応を迅速に行っている。季節感のある行事を多く行い運動会は家族や地域の方々と共に楽しんでいる。個々の誕生日を大事にしており当日に手作りケーキでお祝いしている。庭には、ゴーヤのカーテンやトマト、さつまい等を栽培しそれらに関連する行事を楽しんでもらっている。開所以来継続しているセラピストによる音楽療法やビューティタッチセラピー等皆様楽しみにされている。毎月、ご家族や町内会に郵送したり回覧している「菜の花便り」は201号になった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・各居室に個々のケア目標が掲示されており、利用者の自覚や日常の生活支援の確認に繋がっている。
- ・重度化、病状進行時には、母体病院での入院治療や住み替えの支援がスムーズに行われている。病状や心身の状況改善により事業所に再入居する利用者もおり、途切れない支援が実践されている。
- ・開所時から複数のボランティアの訪問を受けているが、新しく軽音楽の演奏を企画するなど、行事のマンネリ化を防いでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より「地域と共に、自然と共にその人らしく」を理念とし、その実践に向けて日常的に教育している。	大項目の理念と、10項目の指針を具体的表現で作成している。始業時のミーティングで、管理者やケアリーダーが中心となり当日の行動指針を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	神楽、お祭り、敬老会等への参加。運営推進会議等での自治会長、民生委員との意見交換や交流、近所の喫茶店や商店での買い物、中学生の職場体験、ボランティアの受け入れ等。	地域行事への参加は、利用者の参加順や時間配分を工夫することで、複数の利用者が均等に参加出来るようにしている。利用者の気分転換で利用する近所の商店の主人には、利用者の理解も得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地区の行事等で出来る事から取り組んでいる。菜の花便りの回覧、認知症介護教室の開催やサロンでのホームの紹介を実施。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催している。入居者の現状報告を行い行政の方の意見や指導、民生委員、自治会長の助言や協力等をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では事業所の状況報告を行っている。今年度、避難訓練についての助言を受け、利用者の避難誘導の実践訓練を行っている。会議議事録を誰もが閲覧出来るよう玄関に掲示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や行事に参加してもらう等で事業所の取組を伝え、それについての意見をもらったり評価結果についてもその場で報告する。	大分市長寿福祉課の職員が、運営推進会議の委員として参加している。事業所の現状や取り組みの報告を行い、事業所行事の案内も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修会に参加したり定例会で勉強会を実施し共有認識を図っている。入居者の状態を観察し見守る事で拘束をしないケア実践の努力をしている。	内部研修や外部研修が行われている。帰宅願望の強い利用者に対して、一緒に近所を散策し、近くの商店で休息を取り、気分転換を図るなど、抑圧のない見守り支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	日常的に管理者は職員の言動に気を配り、日々のカンファレンス等でその都度注意を促す。虐待防止の研修に参加し定例会等で再度職員に教育を徹底する。		

事業者名:グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方がおり、その都度職員にも分かりやすい様説明をし、研修会に参加して定例会で職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前までは相談員や管理者が、契約は管理者が行いその後は管理者や職員が、家族や関係者が納得いくまで、説明を行う。報酬改定時は説明をし、署名、捺印をもらう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、苦情相談施設の案内等玄関に設置している。毎月の便りに個別のメッセージを添えている。年に数回親睦会や家族参加の行事を開催し意見や意向を聴き運営に反映している。	親睦会ではレクレーションを楽しみ、家族にとって利用者の日常の様子を確認する場にもなっている。毎月の便りには、利用者の健康や生活状況、生活の場で発せられた「言葉」などが丁寧に記載されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会を開き職員一人一人の発言のもと全員が自由に意見を言い、業務の見直しや運営に活かしている。	毎月の定例会は、ユニット合同で行われている。業務の見直しや提案など、意見を発言しやすく、皆で検討しながら負担軽減や合理性のある職場環境作りが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、時間外手当等の支給、管理者はフリーの勤務とし柔軟に対応できる様にしている。希望すれば講演会や研修参加、資格取得への支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で開催される研修には出来る限り多くの職員が参加できるようにしている。新しい職員には認知症専門の研修に参加してもらい、各研修の報告は勉強会を兼ねて定例会で発表し報告書は誰でも閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の連絡会主催の講演会やレクレーション、研修会等に参加している。他ホームの見学や交換実習にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に事業所を見に来てもらい必要であれば通って貰ったり、管理者が会いに行ったり遊びに来て貰ったりしながら関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談員、ケアマネ、管理者が連携して家族と納得のいくまで話す。見学に来て貰ったり、職員と話をしてもらう。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員、ケアマネ、管理者が連携し早急な対応が必要な方には可能な限り柔軟な対応を行い場合によっては、他事業所のサービスに繋げる等の対応もしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意な事や出来る事を把握し、一緒にやりながら教えてもらったり助けてもらったりする。また、そういう場面が多くもてる様工夫している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にどんな小さい事でも報告する。また、いつもと違う事や伝えたい事があればすぐに家族に連絡する。毎月「菜の花便り」には担当がそれぞれの家族に現状を報告する。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの商店での買い物、家族、知人との電話や手紙、葉書での連絡をとりもつ。自宅やその周辺の様子を見に行く等支援をしているが充分でない方もあり今後も支援に努める。	入居時、担当職員が馴染みの人や場について聞き取り、生活の中で得られた情報も職員間で共有し、馴染みの人や場への外出支援や交流の継続支援として活かされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性について情報連携し、全ての職員が共有出来る様にしている。毎日の食事やお茶は職員も一緒に会話をし、役割活動を通して入居者同士の関係が円滑になるようはたらきかける。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連携機関の利用や面会に行く等して関係を断ち切らない様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	場面、場面での本人の言葉をしっかり受け止め希望や意向の把握に努める。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得る様にしている。	入居開始時に家族記入用の基本情報の書式があり、担当職員の聞き取る基本情報と共に、思いや意向を把握するアセスメントとなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの作成、併設施設との情報交換、家族、関係者からの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の情報交換、分かりやすい記録の仕方、定期的なカンファレンス等により、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、かかりつけ医等の意見を反映し、本人が楽しめる事、好きな事を計画的に入れるアセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	情報を基に、介護計画作成担当・担当職員・管理者で介護計画を立案している。目標達成計画に取り組み、利用者から発せられた一言を記録に残すことでモニタリングの充実が図られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者の状態変化には、個々のケア記録や独自のシート、看護記録に詳細に本人の言葉で記録し情報を共有し、それらを基に見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮しながら、面会の延長や外出の付き添い、家族の宿泊、受診の付き添い等、柔軟に対応している。		

事業者名:グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政センターの図書室の利用や地区行事、お祭り等への参加。中学生の職場体験やボランティアの受け入れ、消防署、民生委員等との意見交換もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関の他本人や家族に情報を提供し希望する医療が受けられる様支援している。また、家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースもあり複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	掛かりつけ医として、母体医療機関の往診を受けている。週に一度の訪問看護を受け、健康管理や療養支援が行われている。専門医受診は情報を提供し、家族対応での受診が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており常に本人の健康管理や状態変化に応じた支援を行える様にしている。看護職員がいない時は連携医療機関との連携も密にとれる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐため医師や看護師と相談し事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院できる様アプローチしている。また、職員が頻繁に見舞う様になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化に伴う意思確認書を作成し事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。今後は定期的に意思確認の再確認をしていく必要があると思われる。	入居時、常時医療処置が必要となれば入院退所の事業所方針を伝えている。手術せず温存加療方針の利用者も、掛かりつけ医や訪問看護との協力支援により、事業所での暮らしを継続できている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の勉強会を実施し、AEDを設置するとともにその勉強会も実施している。夜間時の緊急対応についてもマニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し消防署の協力を得て年2回避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を行っている。非常食を準備し地域の協力体制については自治会長、民生委員に訓練に参加してもらい消防団へは入居状態を知らせている。	火災・水害・夜間想定など複数のマニュアルが作成されている。昨年の大雨時、1階の利用者を早期に2階に移動するなど、正確な状況把握と早めの避難対応の体制が作られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やカンファレンスの折りに職員の意欲向上を図るとともに日々の関わり方をリーダーが点検し本人の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	プライバシーや尊厳を大切に声掛け、居室訪問に努めている。日々の支援の中で、対応や発言での気づきは、職員間での注意喚起に繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な事でも本人の決める場面を作っている。(飲み物の選択、体操のシール貼り、する・しないの選択)職員の決めたことを無理強いしないで複数の選択肢を提案し自分で決める場面をつくる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や行事等本人の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。体調を観ながらその日その時の本人の気持ちを尊重してできるだけ個性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣は本人の意向で決めており職員は見守りや支援が必要な時に手伝う。自己決定がしにくい方には、職員と一緒に考えて本人の気持ちに添った支援を心掛けている。日頃から化粧やおしゃれを楽しみパーマ毛染めも利用し、エステやマッサージも講習を受け資格保有者が施術する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	運搬食のため調理を一緒にする機会は少ないがおやつを一緒に作ったり配膳や片づけ等を入居者と共に行い職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事出来る様雰囲気作りも大切にしている。	食事は母体厨房で作られているが、差し入れ野菜や事業所の畑で収穫された食材を調理して副菜の一品として楽しむ機会もある。職員と利用者が食卓を囲み、会話しながら同じ食事を食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立の作成。食事の残食量のチェックを記録し摂取量の把握。食事形態や栄養補助食品の摂取等検討し献立外であっても、本人の好む物を提供する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い能力に応じて職員が見守ったり介助をしている。毎食前嚥下体操を行い歯科医の協力で定期検診を実施したり毎月1回歯科衛生士による勉強会に参加し職員皆に報告しスキルアップを行っている。		

事業者名:グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや習慣を把握しトイレ誘導したり、その方に合った下着や衣類を使用する事やトイレでの排泄にこだわり1日1回はトイレに座る事を実施している。	オムツを使う利用者も、差し込み便器利用での排泄支援を行っている。利用者の動きや合図をもとに、声掛けや誘導によるトイレでの排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や繊維質の多い食材や乳製品を採り入れている。散歩や体操、家事活動等、体を動かす機会を適度に設けて、自然排便が出来る様取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はあわただしくならない様ゆっくり時間をとって楽しんでもらう様にしている。介助が必要な方は簡易リフトや介助用シャワーチェアを使用、順番にこだわる方用に順番表を作成し対応している。	週3回の入浴を基本としている。介護度1から5の利用者が穏やかに入浴が楽しめるよう、足浴から順に湯に慣れた後、湯船に浸かったり、入浴順番表を掲示し、入浴日や入浴順の自覚を促す工夫が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中の活動を促し生活リズムを整える様つとめている。また、一人ひとりの体調や表情希望等を考慮して、ゆっくり休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を全職員が内容把握出来る様にしている。服薬時は本人に手渡しきちんと服薬できているか確認する。処方や内容変更時状態の変化が見られる時、詳細な記録をとり看護職員や医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえる様配膳の手伝い、洗濯物たたみ、庭の手入れ、生け花、書道、カラオケ等、音楽療法、近所のコンビニでの買い物や、喫茶店等へも出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期は散歩に行く。個別には喫茶店やお寺参り、コンビニへの買い物に行ったり家族にお願いして外出してもらう事もある。	日常的に外気を楽しむ支援に努めている。散歩や近所の商店への買い物、家族との外出など、介護度に関係なく、気分転換やストレス解消に繋がる外出支援が行われている。桜の季節には、近くの桜並木に行って皆で春を満喫する機会がもたれている。	

事業者名:グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を自分で管理し買い物に行き自分で払う人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気作りや声かけを行うとともに贈り物のお礼の手紙や葉書を書いてもらっている。携帯電話を所持している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自宅で使用していた物をおいている。季節の野菜や花を植えたり玄関にベンチを置いたりして居心地良く過ごせる様工夫している。	共用空間には食卓とソファが置かれ、自宅のリビングを思わせるようなしつらえになっており、利用者同士でゆったりと過ごせる場となっている。大きな窓から見える、行き交う人や郵便配達、小動物の様子は、職員との会話に繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチを置いたり、テレビをゆっくり見たり、話しがしやすい空間を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、仏壇等、写真や思いでの品々が持ち込まれ、居心地の良さを配慮している。	携帯電話を常時充電し、家族いつでも連絡できるようにしたり、骨折リスクのある利用者は、フロアにマットを敷き、いつでも休養が取れるよう布団を敷いておくなど、安心して過ごせる居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何がわかりにくいのか、どうしたら本人の力でやってもらえるのか。を追求し状況に合わせて環境整備に努めている。新たな混乱や失敗が生じた時は職員で話し合い不安や混乱材料を取り除き、自立支援に繋げている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101496		
法人名	医療法人 善昭会		
事業所名	グループホーム菜の花(2F)		
所在地	大分市東鶴崎3-1-6		
自己評価作成日	令和1年9月28日	評価結果市町村受理日	令和2年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和元年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1Fと同文

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホーム菜の花(1F)に記載】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より「地域と共に、自然と共にその人らしく」を理念とし、その実践に向けて日常的に教育している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	神楽、お祭り、敬老会等への参加。運営推進会議等での自治会長、民生委員との意見交換や交流、近所の喫茶店や商店での買い物、中学生の職場体験、ボランティアの受け入れ等。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地区の行事等で出来る事から取り組んでいる。菜の花便りの回覧、認知症介護教室の開催やサロンでのホームの紹介を実施。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催している。入居者の現状報告 を行い行政の方の意見や指導、民生委員、自治会長の助言や協力等をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や行事に参加してもらう等で事業所の取組を伝え、それについての意見をもらったり評価結果についてもその場で報告する。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修会に参加したり定例会で勉強会を実施し共有認識を図っている。入居者の状態を観察し見守る事で拘束をしないケア実践の努力をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に管理者は職員の言動に気を配り、日々のカンファレンス等でその都度注意を促す。虐待防止の研修に参加し定例会等で再度職員に教育を徹底する。		

事業者名:グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方がおり、その都度職員にも分かりやすい様説明をし、研修会に参加して定例会で職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前までは相談員や管理者が、契約は管理者が行いその後は管理者や職員が、家族や関係者が納得いくまで、説明を行う。報酬改定時は説明をし、署名、捺印をもらう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、苦情相談施設の案内等玄関に設置している。毎月の便りに個別のメッセージを添えている。年に数回親睦会や家族参加の行事を開催し意見や意向を聴き運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会を開き職員一人一人の発言のもと全員が自由に意見を言い、業務の見直しや運営に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、時間外手当等の支給、管理者はフリーの勤務とし柔軟に対応できる様にしている。希望すれば講演会や研修参加、資格取得への支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で開催される研修には出来る限り多くの職員が参加できる様にしている。新しい職員には認知症専門の研修に参加してもらい、各研修の報告は勉強会を兼ねて定例会で発表し報告書は誰でも閲覧できる様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の連絡会主催の講演会やレクリエーション、研修会等に参加している。他ホームの見学や交換実習にも積極的に参加している。		

事業者名:グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に事業所を見に来てもらい必要であれば通って貰ったり、管理者が会いに行ったり遊びに来て貰ったりしながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談員、ケアマネ、管理者が連携して家族と納得のいくまで話す。見学に来て貰ったり、職員と話してもらう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員、ケアマネ、管理者が連携し早急な対応が必要な方には可能な限り柔軟な対応を行い場合によっては、他事業所のサービスに繋げる等の対応もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意な事や出来る事を把握し、一緒にやりながら教えてもらったり助けてもらったりする。また、そういう場面が多くもてる様工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にどんな小さい事でも報告する。また、いつもと違う事や伝えたい事があればすぐに家族に連絡する。毎月「菜の花便り」には担当がそれぞれの家族に現状を報告する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの商店での買い物、家族、知人との電話や手紙、葉書での連絡をとりもつ。自宅やその周辺の様子を見に行く等支援をしているが充分でない方もあり今後も支援に努める。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性について情報連携し、全ての職員が共有出来る様にしている。毎日の食事やお茶は職員も一緒に会話をし、役割活動を通して入居者同士の関係が円滑になるようはたらきかける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連携機関の利用や面会に行く等して関係を断ち切らない様になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	場面、場面での本人の言葉をしっかり受け止め希望や意向の把握に努める。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得る様にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの作成、併設施設との情報交換、家族、関係者からの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の情報交換、分かりやすい記録の仕方、定期的なカンファレンス等により、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、かかりつけ医等の意見を反映し、本人が楽しめる事、好きな事を計画的に入れるアセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者の状態変化には、個々のケア記録や独自のシート、看護記録に詳細に本人の言葉で記録し情報を共有し、それらを基に見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮しながら、面会の延長や外出の付き添い、家族の宿泊、受診の付き添い等、柔軟に対応している。		

事業者名:グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政センターの図書室の利用や地区行事、お祭り等への参加。中学生の職場体験やボランティアの受け入れ、消防署、民生委員等との意見交換もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関の他本人や家族に情報提供し希望する医療が受けられる様支援している。また、家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースもあり複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており常に本人の健康管理や状態変化に応じた支援を行える様になっている。看護職員がいない時は連携医療機関との連携も密にとれる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐため医師や看護師と相談し事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院できる様アプローチしている。また、職員が頻繁に見舞う様になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化に伴う意思確認書を作成し事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。今後は定期的に意思確認の再確認をしていく必要があると思われる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の勉強会を実施し、AEDを設置するとともにその勉強会も実施している。夜間時の緊急対応についてもマニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し消防署の協力を得て年2回避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を行っている。非常食を準備し地域の協力体制については自治会長、民生委員に訓練に参加してもらい消防団へは入居状態を知らせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やカンファレンスの折りに職員の意欲向上を図るとともに日々の関わり方をリーダーが点検し本人の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な事でも本人の決める場面を作っている。(飲み物の選択、体操のシール貼り、する・しないの選択)職員の決めたことを無理強いしないで複数の選択肢を提案し自分で決める場面をつくる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や行事等本人の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。体調を観ながらその日その時の本人の気持ちを尊重してできるだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣は本人の意向で決めており職員は見守りや支援が必要な時に手伝う。自己決定がしにくい方には、職員と一緒に考えて本人の気持ちに添った支援を心掛けている。日頃から化粧やおしゃれを楽しみパーマ毛染めも利用し、エステやマッサージも講習を受け資格保有者が施術する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	運搬食のため調理を一緒にする機会は少ないがおやつを一緒に作ったり配膳や片づけ等を入居者と共に行い職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事出来る様雰囲気作りも大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立の作成。食事の残食量のチェックを記録し摂取量の把握。食事形態や栄養補助食品の摂取等検討し献立外であっても、本人の好む物を提供する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い能力に応じて職員が見守ったり介助をしている。毎食前嚥下体操を行い歯科医の協力で定期検診を実施したり毎月1回歯科衛生士による勉強会に参加し職員皆に報告しスキルアップを行っている。		

事業者名:グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや習慣を把握しトイレ誘導したり、その方に合った下着や衣類を使用する事やトイレでの排泄にこだわり1日1回はトイレに座る事を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や繊維質の多い食材や乳製品を採り入れてしている。散歩や体操、家事活動等、体を動かす機会を適度に設けて、自然排便が出来る様取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はあわただしくならない様ゆっくり時間をとって楽しんでもらう様にしている。介助が必要な方は簡易リフトや介助用シャワーチェアを使用、順番にこだわる方用に順番表を作成し対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中の活動を促し生活リズムを整える様つとめている。また、一人ひとりの体調や表情希望等を考慮して、ゆっくり休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を全職員が内容把握出来る様にしている。服薬時は本人に手渡しきちんと服薬できているか確認する。処方や内容変更時状態の変化が見られる時、詳細な記録をとり看護職員や医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえる様配膳の手伝い、洗濯物たたみ、庭の手入れ、生け花、書道、カラオケ等、音楽療法、近所のコンビニでの買い物や、喫茶店等へも出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期は散歩に行く。個別には喫茶店やお寺参り、コンビニへの買い物に行ったり家族にお願いして外出してもらう事もある。		

事業者名:グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を自分で管理し買い物に行き自分で払う人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気作りや声かけを行うとともに贈り物のお礼の手紙や葉書を書いてもらっている。携帯電話を所持している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自宅で使用していた物をおいている。季節の野菜や花を植えたり玄関にベンチを置いたりして居心地良く過ごせる様工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチを置いたり、テレビをゆっくり見たり、話しがしやすい空間を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、仏壇等、写真や思いでの品々が持ち込まれ、居心地の良さを配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何がわかりにくいのか、どうしたら本人の力でやってもらえるのか。を追求し状況に合わせて環境整備に努めている。新たな混乱や失敗が生じた時は職員で話し合い不安や混乱材料を取り除き、自立支援に繋げている。		